



## 「確率」の問題

校長 尾崎 淳一

私は元・国語教師ですが、今日は数学の難問を出題したいと思います。

### ① 3枚の500円玉を投げるとき、全て「表」になる確率を求めなさい。

正解は「 $1/8$ （8分の1）」です。3枚投げると、【表表表】【表表裏】【表裏表】【表裏裏】【裏表表】【裏表裏】【裏裏表】【裏裏裏】の8種類の組合せがあり、全て「表」は【表表表】の組合せ1種類だけです。1/8の確率ということになります。表と裏が出る確率はそれぞれ1/2と考えられますから、計算では、 $1/2 \times 1/2 \times 1/2 = 1/8$ となるのです。

### ② サイコロを3回振ったとき、全て「1」が出る確率を求めなさい。

①の問題と同様に考えてみましょう。1から6までの目から「1」の目が出る確率は1/6です。それを3回振るのですから、 $1/6 \times 1/6 \times 1/6 = 1/216$ となります。もしも4回振るとすれば、もう一度1/6を掛けることになるので、確率は1/1296とぐっと下がります。

「愛知県公立高等学校」全日制一般選抜の学力検査は、「2023年度公立高校入試」からマークシート方式に変更となり、今回が4回目となります。マークシートと聞くと、私たちの時代の大学受験を思い出します。当時の国公立大学には、2段階の入試がありました。どの大学を希望しても受験しなければならない「共通一次試験」と、各大学が出題する「二次試験」です。このうちの「共通一次試験」が全てマークシート方式で、4～6個の選択肢から問題の趣旨にあったものを解答シートにマークしていきます。何となく簡単そうに思えるし、適当にマークすれば当たる気がして、かなり甘く見ていましたね。

しかし、現実には上にある問題のとおりで、まぐれ当たりや神頼みの正答は「至難の業」なのです。まして、宝くじの一等を当てて大金持ちになろうなど、夢のまた夢ということに気がきますね……。記述式だろうとマークシート方式だろうと、しっかりと学力を身に付けなければ勝負できないのは変わりません。竜北3年生の皆さん、目前に迫った高校入試に向けて、ラストスパートをお願いします。ここからが勝負の分かれ目ですから！



さて、最近、「竜北賞」の受賞者が増えました。「周りの仲間に親切に接した竜北生」「学年や学級のために小さな取組を始めた竜北生」「得意なことを生かして活躍した竜北生」など、理由は様々ですが、全員に共通していることがあります。それは、校長室で話を聞く時に、「皆、いい顔をしている」ということです。そんな素敵な竜北生と話す時間は、日々、激流に流されて生きている私にとって、貴重な「憩いのひととき」なのです。

9日（金）に校長室へお招きした写真の2名は、下校途中の自損事故で軽傷を負い、自転車も壊れて困っている面識のない竜北生を積極的に救助した、正義感に溢れる1年生です。素晴らしいですね。私も、もしもの時は助けてくださいね。約束ですよ！

皆で創る温かい学校。「自分も大事、他人も大事」を合言葉に、「竜北生、Go!!」

本格的な受験シーズンを迎えました。保護者の皆様にとっても、緊張の日々が続くことと思います。これまでのお子様の努力を信じて、温かい眼差しで見守っていきましょう！

（令和8年1月14日）